

モノづくり競争力の強化		杉山 新治	
--------------------	--	--------------	--

配当年次	1 年次	配当学期	2 学期	科目区分	エグゼクティブ
単位数	2 単位	必修・選択	選 択	授業形態	講 義

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	理論知識	
	実践知識	○ 生産や製造に関するマネジメントに必要な専門的知識を習得する。
技能	分析解決技能	
	実務技能	○ 生産や製造に関する問題点を適切に把握する能力を身につける。
	新規事業技能	
態度	倫理観態度	
	企業変革態度	○ 生産や製造に関する問題点を解決し、変革の道筋を提示する能力を身につける。
	地域リーダー態度	
	国際協調態度	

※ ◎: 強く関連 ○: 関連 △: やや関連

※ 2013年度以降入学生が対象です。

モノづくり競争力の強化

授業の概要

わが国は資源小国であり、製造業が勝ち残るためには、モノづくりの競争力で世界に優位に立たなければならない。メイド・イン・ジャパンとして世界トップのものづくり大国だった日本は、80年代には勤勉さがもたらした高品質でその優位を保ってきたが、今やそれだけでは追い上げてきている諸国に足元を脅かされてきている。この現状を踏まえ、今後モノづくり競争力をどのような方法で強化すべきかを、実務家の視点から、人材育成と工場運営のあり方、高品質のつくり込み方、生産性改善の重要性、生産技術の進化などに重点をおき、そのしくみや改善方法について事例を紹介しながら解説する。

教科書

雨澤政材（あめざわまさもと）著「トヨタで学んだ工場運営」日刊工業新聞社
2014年10月発刊 ￥2200＋税、（その他適宜資料のコピーを追加で配布）
（注）教科書は、初回講義時に小倉サテライトで購入してもらう予定です。

参考書

佐々木真一著「トヨタの自工程完結」ダイヤモンド社 ￥1600＋税
平井勝利著「よいモノづくりはよい人づくりから」日本規格協会 ￥1600＋税
遠藤 功著：現場論「非凡な職場」をつくる論理と実践 東洋経済新報社 ￥1800＋税

授業計画・内容

講義方式に加えて、DVDやプロジェクターを活用し、分かりやすい解説を心がける。
質疑応答の時間を十分取り、理解を深めてもらう。

- ① モノづくり企業に求められる競争力
【開発からアフターサービス】【商品開発力】【生産技術力】
【工場運営能力(現場力とは)】【宣伝・販売力】
- ② 工場管理概論
【企業による工場の位置づけ】【工場管理の基本】【工場の持つべき要件】
- ③ 安全・衛生管理
【安全な作業は作業の入口】【安全・品質は企業経営成功の鍵】【労働災害防止活動】
【労働疾病防止活動】
- ④ ⑤ 企業の発展と人材育成
【労務管理の変遷】【「人材」から「人財」へ】【企業風土（職場風土）づくり】
【管理・監督者の役割】【職場の働きがいとモチベーション管理】
- ⑥ ⑦ 原価管理
【原価管理の体系】【原価構成・費目区分】【開発段階での原価改善】
【製造原価の把握と改善】
- ⑧ ⑨ 品質管理
【トヨタの品質管理】【お客様指向】【停めるライン・止まる設備】【自工程完結思想】
【日常管理と変化点管理】【品質アセスメント】
- ⑩ トヨタ生産方式の生まれた背景
【トヨタの歴史】【経営理念】【トヨタ生産方式とは】

- ⑪ トヨタ生産方式の特徴
【限りない原価低減】【TPSの2本の柱】【TPSの広がり】
- ⑫ トヨタ生産方式の基本的な手法
【5S】【職場の見える化】【ムダの削減・排除】【生産ラインの作り方】
- ⑬ トヨタ生産方式の具体的な改善の進め方
【基本姿勢】【改善の切り口】【生産仕掛けの改善】【人の動きの改善】
【物の流し方～流れの改善】
- ⑭ 人財育成～技能伝承と職場活性化の方法とその実践事例
【標準化と技能伝授】【人財育成のしくみと道具】【ワーキングライフプラン】
【職場活性化の道具とリーダーの役割】
- ⑮ 工場における実践事例見学
トヨタ自動車九州㈱のレクサスラインを見学・・・12月または翌年1月に実施予定
(別途工場カレンダーが決定後に連絡～受講者と調整)

成績評価の方法	日常の授業への取組姿勢 30% 課題についてのレポート評価 70% (講義の理解度・習得度 30%・自分の立場や将来展望からの主張 40%)
事前・事後学習の内容	毎回の授業内容に関して、現在の自分の抱える問題や課題に対して参考になったことや新たな「気づき」を書き留めておくこと。 字数などは規定しないが、最終レポートと一緒に提出の事。
履修上の注意	質疑応答の時間を十分取るので、毎回質問を考えてきておくこと
担当者からのメッセージ	⑫⑬(7回目)と⑭⑮(8回目)は、工場見学の日程によって前後する場合があります。その際は、受講者のみなさんに事前に連絡します。
キーワード	実践的統合マネジメント能力、人財育成、組織の活性化、品質管理、トヨタ生産方式、レクサスブランド